０７／０４／０１　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：イエスを殺したのはだれか
聖書箇所：使徒の働き　２章２２，２３，３６節

私たち日本人もイエス・キリストが十字架で死なれたことは知っていても、それが自分とどのように関連しているのかということについては知らないでいます。世界を変えたこの出来事についてあなたが知らなければならないことがあります。今からそのことを使徒の働き２章から学んで行きましょう。イエス・キリストが十字架にかかり復活され昇天された後、地上に残された弟子たちが語ったメッセージは、イエス・キリストがいったいだれであったか、イエス・キリストが何のためにこの世に来られたのかというもので、彼らはイエス・キリストについて語り始めて行くのです。私たちはここでペテロが語ったメッセージを見るのですが、彼らのメッセージがどのようなものであり、人々に何を伝えたかったのかを見ることができます。彼らが伝えたかったのは、イエス・キリストは真の神であるということです。私たちのように多神教の国に生まれた者には「神」ということばは誤解を招きますが、この一神教の人々の中にあって、彼らが明確に伝えたかったことは、このイエス・キリストこそがすべてをお造りになった唯一真の神であることを明らかにしたのです。イエスは唯一真の神である、ほかにはいないと言うのです。神と呼ぶのにふさわしい方はこの人しかいないと言うのです。それが彼らのメッセージでした。実は、そのことはイエス・キリストがこの地上におられたときに繰り返し人々の前で明らかにされたことでもありました。イエス・キリストはご自分がだれであるかということを人々の前に明らかにされたのです。

◎イエス・キリストご自身が地上で明らかにされたこと

１．大祭司カヤパに対して

イエスが捕らえられた後、大祭司カヤパのところに連れて行かれました。そして、カヤパとの会話の中で彼はイエスにこのように尋問します。**「…「あなたは、ほむべき方の子、キリストですか。」**と、するとイエスは彼に**「わたしは、それです。…」**と言われました。**「ほむべき方の子」**、ユダヤ人たちは神ということばの代わりにこのような表現を用いたのです。つまり、この質問でカヤパが問うていることは「あなたは神なのか？あなたは救世主なのか？」です。それに対するイエスの答えは**「わたしは、それです。」**でした。マルコ１４：６１節から記されています。カヤパの前でも、また、その質問を耳にしていた人々の前でもイエスはそのことを明らかに告げるのです。

２．ソロモンの廊にて

イエスはエルサレムにおられました。身のきよめの祭りのときにエルサレムは冬だったと聖書は教えていますが、彼らはソロモンの廊を歩いていました。イエスは神殿にいたのです。そのときに、ユダヤ人たちがイエスを取り囲んで、**「あなたは、いつまで私たちに気をもませるのですか。もしあなたがキリストなら、はっきりとそう言ってください。」**と問いかけるのです。そのとき、イエスが答えられたことは**「わたしは話しました。しかし、あなたがたは信じないのです。」**でした。ヨハネ１０：２３から記されています。つまり、イエスは何度も人々にご自分がだれであるのか、ご自分が唯一真の神であるということを明らかにしておられたのです。そのメッセージが明確に伝わったという証拠に、先ほど見たヨハネ１０章の続きを見て行くと、３１節**「ユダヤ人たちは、イエスを石打ちにしようとして、また石を取り上げた。」**と、その会話のあとにユダヤ人たちはイエスを石打にしようとしています。なぜ、そのようなことをしたのかというと彼ら自身がその理由を言っています。３３節**「良いわざのためにあなたを石打ちにするのではありません。冒涜のためです。あなたは人間でありながら、自分を神とするからです。」**と。どのようにキリストの神性を否定する人々が語ったとしても、どんな理由づけをしたとしても、みことばが私たちに教えてくれることは、イエスに対して敵対心を抱いていた彼らは、イエスのメッセージを聞きそれを理解したのです。イエスが言っていたこと、それはイエスがご自身が神であることを明らかにしたのです。それを聞いていた人々は神に対する冒涜だと言ったのです。これほど明確にイエスの主張が語られているところはないのではないでしょうか？敵がそのように証言するのですから。イエスが言われたことを聞いていた人々はそれゆえにイエスを殺そうとするのです。ですから、イエスの主張は明確にご自分が神であることを明らかにしたのです。

３．イエスは神として礼拝されている

同時に、イエスはそのようなことを言われただけでなく、イエスの行動を見たとき、イエスは神として礼拝を受けておられます。イエスがよみがえった後、よみがえりの知らせをもって弟子たちのところに走って行った女性たちに、イエスはお会いになります。そのときに彼女たちはイエスのもとに近寄っ

て来て、**「…彼女たちは近寄って御足を抱いてイエスを拝んだ。」**とマタイ２８：９に記されています。また、イエスの１１名の弟子たちが指示された通り、ガリラヤの山でイエスにお会いしたとき、彼らは何をしたのでしょう？同じマタイ２８：１７で教えています。**「彼らは礼拝した。」**とあります。私たちのように多神教の者なら何を礼拝しても問題はありません。しかし、ユダヤ人たちはそうではなかった、彼らは神がモーセを通して語った律法を覚えているのです。神は人々に、偶像を造ってはならない、それらを拝んでもならないと命じられていましたから、そのことをよく知っていました。神は唯一でありその方が礼拝にふさわしい唯一のお方である、それ以外のものを崇拝することは偶像崇拝であると、そのことをよく知っていた彼らがイエスを拝むのです。そして、それに対してイエスは何の抵抗もしておられません。それをお受けになっておられます。彼らはイエスを崇拝することによって偶像崇拝の罪を犯したのでしょうか？いいえ、そのことは神が証明しているのです。それをペテロがこの使徒の働き２章のところで私たちに教えてくれるのです。

☆ペテロの証言

使徒２：２２**「イスラエルの人たち。このことばを聞いてください。神はナザレ人イエスによって、あなたがたの間で力あるわざと、不思議なわざと、あかしの奇蹟を行なわれました。それらのことによって、神はあなたがたに、この方のあかしをされたのです。これは、あなたがた自身がご承知のことです。」**、ペテロはこのようにイスラエルの人々に対して語るのです。

１．キリストのみわざ

ペテロが教えたことは彼らがよく知っていたことでした。それはイエス・キリストが行なわれた数々の奇蹟のことです。しかも、その奇蹟がなぜ？だれによってなされたのか、そのことを教えるのです。**「ナザレ人イエスによって、」**様々な奇蹟が行なわれたのです。もう少しよく見ると、神がそれを為したと書かれています。**「神はナザレ人イエスによって」**これらのことを行なったのです。ですから、イエスによって奇蹟を為されたのは神だと言うのです。イエスが為された奇蹟のみわざは神のみわざです。そのことを先ずペテロは言うのです。**「ナザレ人イエス」**、当然ここにいた群衆はイエスが人としてどのような生活をされたのか、ナザレのイエスであったことをよく知っていました。だから、皆はイエスが私たちと同じ人間であると知っていました。でも、それで終わりではありません。ペテロはイエスは確かに人間であったけれど、それだけではないとして奇蹟の話をするのです。**「力あるわざ」、「不思議なわざ」、「あかしの奇蹟」**と。すべてこれは奇蹟のことです。イエスが為さった奇蹟を思い出してください。**「力あるわざ」**：自然には起こりえない超自然的な行ないだったということです。自然界を治められたり、死人を生かされたり…。**「不思議なわざ」**：その奇蹟を目撃した人に驚きと恐れの気持ちをもたらしました。同時に、**「あかしの奇蹟」**であると、この奇蹟の目的を人々に教えるものだったと言います。

（１）イエスの奇蹟を通して、神がなさろうとしたことは？

・<u>神はイエスとともに働いておられた</u>

まず、私たちが最初に覚えておくべきことは、先に見たように、イエスの奇蹟は神が彼を通して為されたみわざとだとするなら、神はイエスとともに働いておられたということです。イエスが為しておられたことを神が喜んでおられた証拠ではないでしょうか？もし、イエスがやっていることを神がお怒りになっておられるなら、どうして、イエスを使ってこのような奇蹟のみわざをなされるのでしょう？もちろん、サタンもそのようなわざを為すことがあります。しかし、イエス・キリストの奇蹟を見たとき、人々はその奇蹟を通して、神を信じた人々は神をほめたたえながら去って行ったことが何度も記されています。だから、私たちはイエスが為された奇蹟を見るとき、神がイエスとともに働いておられたこと、そのように神はイエスを喜んでおられたのだということを見ることができます。

・<u>イエス・キリストがだれなのかを明らかにする</u>

もう一度２２節を見てください。**「それらのことによって、神はあなたがたに、この方のあかしをされたのです。」**と、このように日本語の聖書では２行に渡って書かれていますが、これはひとつです。なぜ、このような奇蹟がなされたのか、その目的を教えます。つまり、そのような奇蹟を通してイエス・キリストがいったいだれなのか、どういうお方なのかを明らかにするため、それがこの目的だったとペテロは教えているのです。「あかしをする」ということばは、示す、表わす、明言する、証明する、はっきりと示すという意味のことばです。つまり、父なる神がしようとしたことは、イエスを通して様々な奇蹟を為すことによって、このイエス・キリストがいったいどういうお方であるかということを、人々の前で明らかにしたのです。そのことをはっきりと示されたのです。ペテロはイエス・キリストの主張が真実だ、イエスの言われたことが事実だということを明らかにしたのです。つまり、イエスが主張しただけでなく、父なる神もイエスの言っていることはその通りであると言われ、彼は唯一真の神、彼は唯一の救い主だということをペテロは語るのです。ですから、イエスの奇蹟を見たとき、ある人々は確かに神の方に導かれます。ヨハネ１章にナタナエルという人物のことが出て来ます。ナタナエルがイエスの

もとに近づいて行くときに、イエスが彼についてこのように言われました。**「これこそ、ほんとうのイスラエル人だ。彼のうちには偽りがない。」**、ナタナエルは驚いて言います。**「どうして私をご存じなのですか。」**、イエスは言われます。**「わたしは、ピリポがあなたを呼ぶ前に、あなたがいちじくの木の下にいるのを見たのです。」**、有り得ないことです。そのときにナタナエルは**「先生。あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」**と言います（ヨハネ１：４７－４９）。奇蹟を通してある人々の心は神の方に向けられて行きます。同じヨハネ３章を見てください。ニコデモの話が出て来ます。ニコデモがイエスのもとにやって来た様子が記されていますが、３：２に**「この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなさるこのようなしるしは、だれも行なうことができません。」**とあります。つまり、イエスの奇蹟を見聞きして来たニコデモはこのような結論に達したのです。神があなたとともにいると。

（２）十字架が意味すること

・<u>人間の頑なさ</u>

ペテロは３：２２の最後でこのように言います。**「これは、あなたがた自身がご承知のことです。」**、最初に言ったように、ペテロのメッセージを聞いていたこの群集はイエスのことをよく知っていました。イエスの生活もイエスの気性も、イエスがなさった奇蹟も知っていました。そのようなわざを見て、メッセージを聞いて変えられていった人々です。神の前に正しい選択をした人々です。しかし、そうでない人々もいます。２：２３を見てください。**「あなたがたは、神の定めた計画と神の予知とによって引き渡されたこの方を、不法な者の手によって十字架につけて殺しました。」**、ペテロが言わんとしていることは、ご自分も主張なさったし、父なる神もそれを証明なさった、そのような唯一真の神、神がお送りになった唯一の救い主に対して人間がしたことは、その方を**「不法な者の手によって十字架につけて殺し」**たというのです。これが人間のとった選択だったと言います。信じられない選択をしたのです。神を殺す選択をしたのです。イエスがこの地上で公の生涯を始められたとき、つまり、ご自分がだれかということを人々の前で明らかにしてメッセージを始められたとき、その話を聞きその奇蹟を見た人々はそのわざに驚嘆しました。その教えに驚嘆しました。人々はその教えを聞きその奇蹟を見てイエスを信じたいとさえ思ったのです。ところが、自分の期待が裏切られると失望が始まります。しかも、自分の罪が指摘され、その罪が責められ始めると、怒りを感じ始めます。そして、その怒りが憎しみに変わって行くのです。そして、人々は正当な理由を見つけて彼を殺害することを考え始めるのです。人間の罪深い頑なな心が見えます。神に対して心を開こうとしない、自分中心の罪に染まった頑なな心、私の思い通りでなければ、私の期待する救い主でなければ、私の願ったことをしてくれる人でなければと、私たちの問題はここにあります。私たちはいかに自己中心的なのか、私たちの自我がいつまで経っても神の前にへりくだろうとしないのです。神の前にひざまずいて謙虚に神に従って行こうなどという気持ちは微塵もないのです。私たち人間は自分の思い通りに生きて行きたい、だから、神を信じようとしないのです。神がご自身を隠して私たちが信じられないようにしておられるのではないのです。神は私たちがこの救いを受け入れるようにとご自身を明らかにし、救いの御手を差し伸べてくださっているのです。私たちが信じたくないから信じないのです。そして、信じないだけでなく彼を殺そうとしたのです。彼らはイエス・キリストを憎み罪を愛したのです。みことばが**「人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。」**（ヨハネ３：１９）と言うように、人間は自分の罪の中を歩いて行きたいのです。自分の好きなように生きて行きたいのです。そして、人間はこの神を十字架で殺すという大きな罪を犯すのです。

・<u>すべての人がイエスを十字架につけた</u>

２３節をもう一度見てください。ペテロはその大きな罪の責任について話をするのですが、皆さん、気付かれるでしょう？だれがイエスを殺したのか、そのことに関して彼はこう言います。**「あなたがたは、神の定めた計画と神の予知とによって引き渡されたこの方を、不法な者の手によって十字架につけて殺しました。」**、**「不法な者の手によって」**とはだれのことでしょう？欄外を見ると「律法のない者」とか「外国人（異教徒）」と注釈されています。神を知らない人々です。この当時はローマ人です。彼らによってイエスは殺されたと、確かに、直接手をくだしたのは彼らです。そのことはペテロもよく知っています。あなたがた（ユダヤ人）が直接手をくだしたのではなくて、あなた方は不法な者、異教徒たちの手によってイエスを十字架にかけて殺したのだと、そのようにペテロは言うのです。実際に釘付けにしたのはローマ兵だったけれど、その背後にあって十字架を企てそのように扇動して行ったのはユダヤ人たちであり、その指導者であったと。そのことを知っていながらペテロはここで「あなたがた、イエスを十字架につけた人々、イエスを十字架につけよと叫んだ人々、イエスが十字架で処刑されることを喜んでいた人々、あなたがたのことですよ」とペテロは言っていません。２３節には**「あなたがたは」**と、また３６節には**「イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」**とあり**「あなたがたは十字架につけたの**

です」と言います。だれが黒幕なのか、だれが実際にイエスを十字架につけたのか、そのことを分かっているはずのペテロが、ある人々にだけ責任を限定しているのではなく**「あなたがた」**と言います。この当時、この話を聞いていた人々は少なくても３０００人いたことが、同じ２：４１に記されています。**「そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプテスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。」**と。ものすごい数の人々がこのメッセージを聞いていたのです。その人々すべてに対してペテロは、あなたがたがイエスを殺したのですよと言ったのです。

どうしてペテロはイエスの責任をその当事者だけでなく、すべての人々の責任にしているのでしょう？今までのことをまとめます。イエスの主張はご自分が真の神キリストである、すべての人の罪を赦すためにこの世に来た救世主であると語ったのです。そして、神はその主張が真実であることを奇蹟によって証明された、イエスは確かに真の神でありこの世に来られた唯一の救い主であると。ところが、その真実に対して人々はそれを受け入れることがなかったのです。彼らはイエス・キリストを十字架につけて行くのですが、彼らの特徴は、（１）イエスが神であること、また、キリストであることを否定したのです。それで彼らはイエスを十字架に追いやって行くのです。（２）イエスを信じることをしなかったのです。（３）神の備えてくださった罪の赦しを拒んだのです。そして、彼らはイエスは神を冒涜していると非難するのです。イエスの奇蹟を見た人々は何と言ったでしょう？ヨハネ９章で出てくる全盲の人をいやしたことを思い出してください。全盲の人はこの奇蹟を通してイエス・キリストを信じました。ところが、そこにいた指導者たちは「あれは悪霊につかれて気が狂っているのだ」とか「悪霊の力によってそのわざを為しているのだ」と言って、イエスを信じようとしなかった、イエスを冒涜し続けるのです。だから、皆さん、このことをおぼえてください。ペテロは実際にイエスを殺せと叫び、十字架にかけた当事者なのです。また、その場にいなくても同じようにイエスが神であることを認めず、イエスがキリストであることを信じない人々は神の前に同罪であると告げているのです。なぜなら、同じ罪を犯しているからです。イエスが「あなたがたは姦淫を犯してはならないということを聞いている、しかし、心の中で情欲を抱いて女性を見るならもう姦淫を犯した」と言われたことを覚えてください。つまり、実際に行動を起こさなくても同じ心、同じ気持ちをもっていたら同罪だと言ったのです。実際に、ここでイエス・キリストを殺すことに賛成していた人々と同じ心をもっていた人々は同罪なのです。イエス・キリストが神であることを否定し信じない、備えてくださった救いを受け入れようとしない、その救いを拒み続けている人々は神の前に同罪なのです。だから、イエス・キリストを十字架にかけて殺した人はだれなのか？それはイエスを拒んでいる人です。イエスを憎んでいる人々です。

この使徒の働きの中でペテロはこのように言っています。３：１３－１５**「アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち、私たちの先祖の神は、そのしもべイエスに栄光をお与えになりました。あなたがたは、この方を引き渡し、ピラトが釈放すると決めたのに、その面前でこの方を拒みました。:14 そのうえ、このきよい、正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し、:15 いのちの君を殺しました。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。」**、彼らがしたことはこのイエス・キリストを拒んだのです。このきよい正しい方を拒んだのです。そして、彼を殺したのです。ですから、イエス・キリストが真の神であると信じないで拒み続けている人、イエスが与えてくださった罪の赦しを拒み続けている人、実は、その人はイエスを十字架につけたのです。それなら、私たちは皆そこに属します。生まれながらに私たちは皆イエス・キリストを信じていなかったからです。だれがイエスを十字架にかけてのか、生まれながらに神に逆らっている私たち一人ひとりです。あなたです。あなたの罪がイエス・キリストを十字架に追いやったのです。救われている方はその救いのことを考えて見ると思い出すことでしょう。イエスの話を聞いても聞いてもそれに心を開かなかった自分のことを。でも、不思議なことに、神は私たちの心を開いてくださった、そして、このすばらしい救いへと招いてくださったのです。私たちクリスチャンはそのことを神に大いに感謝しなければいけません。そして私たちは、そうでない愛する人たちの心が同じように開かれることを願い、祈り、伝えて行かなければいけません。救いの扉を閉ざしているのはあなた自身であることに気付かなければいけないのです。そして、主の前に心からの悔い改めをもって救いを求めて出て来ることです。そのときに主は救ってくださるからです。

・<u>神の定めた計画と神の予知による</u>

今、私たちが見てきたことは、私たち人間は人としてこの世に来てくださった真の神、私たちを罪から救ってくださるキリストに対して、彼を十字架につけるという大きな罪を犯したということです。ペテロはそのことを語ったのです。ところが、彼は驚くべきことを私たちに告げます。もう一度、この２：２３を見てください。**「あなたがたは、…不法な者の手によって十字架につけて殺しました。」**とありますが、その間に**「神の定めた計画と神の予知とによって引き渡されたこの方を、」**と書かれています。人間の間違った選択、恐ろしい選択をペテロは教えただけでなく、その背後にある神のすばらしい計画について、ペテロは教えてくれているのです。それは、実は、このイエスを十字架で殺すことは神のご計画であった

とペテロは教えているのです。**「引き渡された」**という形容詞は、敵に引き渡すという意味です。確かに、イスカリオテのユダの裏切りによってイエスは敵の手に引き渡されました。そして、十字架にかけられました。この出来事はイエスの願いに反して為されたことかというと、そうではありません。**「神の定めた計画と神の予知とによって」**と、つまり、そのこともすべて神のご計画のうちにあったのだと言います。**「神の定めた計画」**とあります。**「計画」**とはみこころ、目的です。ですから、このすべてのこと、イエスが十字架にかかって亡くなるということは、神のみこころによって決定されたことであったとペテロは言うのです。しかも、**「神の予知による」**と言います。神は起こるすべての出来事とその過程においてまで全部ご存じだと言うのです。過去の出来事も現在の出来事も未来の出来事も、そのすべての出来事を神は知っておられるということです。聖書はそのことを私たちに教えてくれます。神は主権者であるゆえにすべてのことをご自身のお考えに基いて為されるのです。イザヤ１４：２４に**「万軍の主は誓って仰せられた。「必ず、わたしの考えたとおりに事は成り、わたしの計ったとおりに成就する。」**とある通りです。神のみこころは必ず成るのです。それが神です。ですから、この十字架のことも神がすべてのことをご存じであり、そのことも神のみこころのうちに、計画の中にあったというのです。

ここで間違ってはならないこと、それは神がすべてをお決めになっているならすべての責任は神にあるのではないか？と。聖書は確かに、神は主権者でありすべてのことを神は計画され、その計画は成るということを教えています。しかし、同時に、人間には選択の責任があるということも教えています。人間は自分で考えて自分で選択しなければいけません。道徳的責任も人間は負っているということをみことばは私たちに教えているのです。ですから、**「予知」**ということを見たとき、確かに神は全知のお方であり主権者であるから、すべてのことを知っておられます。出来事だけでなくその過程も知っておられます。しかし同時に、私たち一人ひとりは毎日の生活においてどのように生きて行くか、どのような選択をして行くかという責任を負っているのです。これが神が私たちに教えていることです。ですから、確かに、人々がイエス・キリストを十字架につけた、しかし、神が神の観点から話されるのは、いや実はそれはわたしの計画にあったこと、だから、人々がイエスからいのちを奪ったのではなく、イエスはご自分からいのちをささげられたのだ、何のために？私たちの罪を赦すためにです。罪のないご自身のいのちと引き換えにあなたの罪を赦そうとして、イエスはご自分のいのちを捨ててくださったのです。罪のまったくない完全にきよいお方、人となられた神があなたの罪の身代わりとなって、あなたが受けるべき罪のさばきを受けてくださった、そのためにイエスは来てくれたのです。

まとめです。皆さん、神が為さったこと、神は罪人を救おうとお決めになった、なぜだか分かりません。なぜ、こんな罪深い私たちを神はお救いになるのか分からないですが、そのように神はお決めになった。そして、神は救い主を送ってくださったのです。もうすでに起こった出来事です。イエス・キリストは私たちを救うためにこの世に来てくださったのです。そして、神は救い主を罪人の身代わりにさばかれたのです。神はすでに罪人であるあなたの身代わりにイエスをさばいてくださった、そして、神は罪人のために救いを備えてくださった、あなたのために救いを備えてくれたのです。そして、神は信じる者に罪の赦しを与えてくれるのです。あなたがこのイエス・キリストを信じるなら、あなたにその救いは与えられるのです。神はあなたの罪を完全に赦してくださいます。そこで、私たちがもう一度考えなければならないことは、ではなぜ、私はこの神に逆らい続けようとするのかです。あのイエス・キリストを十字架にかけるという大きな罪を犯しているあなたに対して、神はそれを赦すと言われています。なぜ、この救いを拒み続けようとするのかです。どうぞ、主の前にあなたの罪を心から悔い改めて、もうこの主に逆らう生き方を止めて、主に従う生き方をもって、この救いをご自分のものとしてください。主よ、どうぞ、私の罪を赦してください、今日私はあなたを信じてあなたに従いますと、その正しい選択をもって、このすばらしい神に心からの感謝をささげる人に変わってください。そのことを心から願います。